

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.23
平成27年2月2日

日本一の合唱団をめざして!

3日(火)から、3月まで計5回にわたって、外部の講師を招聘して、5・6年生の合唱指導をしていただきます。講師の先生は、堀田倫子先生で平成23年度から毎年来ていただいています。堀田先生は、ご自身もオペラ歌手として活躍されていますが、小学生や大学生にも合唱指導、歌唱指導をされています。

先生は、昨年の6年生が歌った「桜の葉」のことに触れ、子ども達の演出で歌ったサブライズ曲なのに、とても印象に残っていると話されました。そして、今年は、日本一の合唱団をめざすぐらいのつもりで、目標を高くもって練習してほしいと語られました。それくらい、桜小学校の5・6年生に期待されています。合唱のレベルを上げて取り組んでも、桜小学校の児童ならば、そのレベルに到達できると期待と信頼感をもって熱く語られました。卒業式まであと31日です。ご指導いただいた合唱に対する心構えを肝に銘じ、発声方法を身に付け、心に響く合唱をお届けできるように練習を積み重ねていってほしいと思います。

全校朝礼の話より(1/26)

節分とは、「季節を分ける」ことを意味し、本来は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言います。しかし、旧暦では立春が年の始まりにあたることから、いつのころからか節分といえば、立春の前日をさすようになりました。立春を新年と考えれば、節分は大晦日。特別な意味をもつようになったと思われまます。

節分は大晦日にあたることから、節分の日に邪気(じゃき)をはらい、新年を幸多き年として迎えられるようにという意味を込めて、鬼ばらいの行事が行われます。

【鬼について】

昔は、災害や病、飢饉(ききん)などの恐ろしい出来事は鬼のしわざと考えられていました。

【節分の日のならわし】

○ 豆まき

豆をまく風習は、鬼の目を打ち、「魔を滅する」に通じるからという説があります。いった豆を、年男や一家の主人、厄年(やくどし)の人が「鬼は外、福は内」と大声で叫びながら豆をまき、邪気やわざわいはらいます。

いった豆を使うのは、生豆を使ってひろい忘れたものから芽が出ると再び悪鬼が芽を出してやってくるので良くないといわれているからです。

豆まき後は、自分の年の数、または自分の年の数+1の豆を食べ、一年の無病息災を願います。

○ 鯛(いわし)の頭と柊木(ひいらぎ)

鯛を焼いたときの煙と臭いが厄をはらうといわれ、節分の日には家の入口に鯛の頭を柊の枝にさしておく風習があります。

鬼の嫌がる鯛の臭いと、柊の葉のとげに痛がって、鬼が近寄らないので鬼門封じや厄除けになると昔から言い伝えられています。

○ まき寿司のまるかじり

関西を中心に、その年の恵方(年神様のいらっしゃる吉の方角)に向かって無言で太まき寿司を丸かぶりし、新しい年が良い年でありますようにと願いながら食べるという風習があります。

まき寿司を使うのは「福を巻き込む」からで、切らないのは「縁を切らないために」といわれています。

